

硬式野球部 活動紹介

平成27年度 東京都立両国高等学校・附属中学校後援会

第97回 全国高校野球選手権東京大会



■2015年7月14日。30度を超える暑さ、強風で時折砂埃が舞う江戸川球場で両国対瑞江の試合が行われた。初回制球の定まらない相手投手から先頭打者がストレートのフォアボールで出塁。送りバントとフォアボールもからめ5番の**タイムリーヒット**で幸先良く先制した。2死2・3塁まで攻めるも追加点は奪えず初回は1点で終わる。

■その裏、同じような展開で先頭打者のフォアボールを足掛かりに同点に追いつかれる。ピンチは続き1死1・3塁から犠牲フライで逆転を許す。早く追いつきたい両国は続く2回、2死から9番、1番の**連続2塁打**で同点にする。

■3、4回と相手投手は立ち直り4回裏、相手先頭打者が初球を捉えレフトへホームランを打ち、勝ち越しを許す。直後の**エラー**をきっかけにピンチが続き3点を与え2対6となる。

■4点を追う両国は、5回表**2番打者から始まる好打順**。2死後4番のヒットから1・2塁まで攻めたてるも無得点に終わる。重苦しい雰囲気の中、その裏淵江に2死から長打で2点の追加点を許す。

■6回表先頭7番の**内野安打**をきっかけに3塁まで進むも後続にあと1本が出ず無得点に終わる。

■1点も許す事の出来ない両国はその裏相手先頭打者にフォアボールを与えてしまう。その後内野安打エラー等で2点を失い2対10の8点差とさらにリードを許す。

■大会規定により2点以上取らないとコールド負けになるあとのない両国は7回表、2個のフォアボールとヒットから**2死満塁のチャンス**を迎えバッターは7番。2ストライクと追い込まれながらも粘り、放ったセカンド内野安打により1点を返す。しかし**喜びも束の間**3塁を回ったランナーが挟まれアウトとなり試合終了。結果3対10、7回コールド負けと**選手たちの短い夏は終わりを告げた**。

■両チーム選手の力量は互角に思えたが、随所で良いプレーはあったものの、要所でのエラーやノーヒットが結果となって表れた試合であった。

3年生は、野球部で培った経験を今後の人生に生かし、残る現役生は、この悔しさを糧に新チームで頑張っしてほしいです。

スコア	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
都両国	1	1	0	0	0	0	1			3
都淵江	2	0	0	4	2	2	×			10

